

小寺 泰弘・名大病院長に聞く



安全で 質の高い ゲノム医療 体制作りも

今年4月、名古屋大学医学部附属病院院長に就いた小寺泰弘さんは、胃癌外科のエキスパートでもある。胃癌学会の理事として長く学会誌編集を通じて学会の発展に貢献、胃癌治療ガイドラインの作成などにも携わった。院長職はかなりの重圧らしいが、これから本格的に“医療の巨塔”を率いていく。(聞き手は、塚本隆・中部財界フォーラム社社長)

——院長に就任されて3か月が過ぎました。大病院にはたくさんの専門医、研修医、看護師、裏方さんがおられます。そうした方々を率いていくリーダーシップのご苦労は大変なものがあるのでは。健康法は？

小寺 プレッシャーはかなりありますよ(笑)。時にはジムにも行きますが、なかなか時間がありません。健康法と言っても何もできないのが現状。おかげで少し太りました。そんな中、読書と音楽鑑賞が今は楽しみです。

——今年2月に国際的な医療施設評価認証機関(JCI)の厳しい審査を受け、認証を受けられました。この意義について教えてください。

小寺 JCIとはアメリカの病院評価機構の国際部門として設立された非営利組織です。医療の質と患者の安全を国際的な基準で評価することを目的としていて、日本の大学病院では4施設目、国立大学では初めて認証されました。今年2月に5日間、5人の外国人審査員が名大病院を訪れ、患者さんのケア、院内感染の予防管理体制など16領域1270項目に及ぶ項目を厳しく審査されたのです。簡単に言えば、医師

は自分の仕事を極めることには非常に熱心ですが、たとえば病院の非常口はどこにあるかといったことには知らないことも少なくない。しかし、病院を管理する上ではこういうことはとても大事なのですよ、というのが調査の根本的な考え方で、そういった我々の気づきにくい部分、関心を持たない部分も含めて厳しく審査され、気づきを促され、改修、改善していくわけです。さらに認証を受けた後もこれを維持するのが重要で、3年後にもまた審査があります。こうした取り組みの積み重ねによって病院の質向上に寄与、何よりも病院に対する患者さんからの信頼の醸成につながると考えています。

——厚生労働省が全国12の「臨床研究中核病院」の一つに名大病院を指定していますね。

小寺 日本発の画期的な医薬品や医療技術などを開発するために、国際水準の臨床研究(*注1)や医師主導治験の中心的な役割を担う病院のことをいいます。例えば一つのクスリを完成させるまでには、大学、製薬会社などが多くのハードルを超えて行くわけですが、その過程でその効き目と安全性をしっかりと調べなければ